

農試第983-1号
平成23年7月15日

各関係機関の長 様

福井県農業試験場長
(公印省略)

農作物病虫害発生予察注意報第1号の送付について

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。

連絡先	福井県農業試験場 病虫害防除室
Tel	(直通)0776-54-9315(代表)0776-54-5100
FAX	0776-54-6403
E-mail	byogaichu-boujo@fklab.fukui.fukui.jp

平成23年農作物病虫害発生予察注意報第1号

7月2半旬の斑点米カメムシ類の水田周辺雑草地における生息数は平年より少ないが、平年より早く水田内への侵入も確認されていることや、今後もカメムシ類の発育に好適な気象が続くと予想されるため、斑点米が多発生するおそれがある。このことから、斑点米カメムシ類の徹底した防除を強く喚起するため、注意報を発表する。

病虫害名 斑点米カメムシ類

1 注意報の内容

発生時期：成虫の本田侵入最盛期は7月5半旬

被害程度：少発、局多発

発生量：平年、前年より多い

2 注意報発令の根拠

- (1) 水田周辺の雑草地でのすくいとり調査(50回振り)では、アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ等が本年13.3頭と、平年(18.1頭)より少ないが、前年(11.3頭)よりやや多い発生量となっている。
- (2) 本年度は、梅雨期の少雨、また、梅雨明けが大幅に早まったことに加え、今後も高温、多照が続き、カメムシ類の発育、水田内への侵入に好適な気象条件が続くと予想される。
- (3) アカヒゲホソミドリカスミカメやアカスジカスミカメなどカスミカメムシ類の第2世代成虫の発生最盛期は平年よりやや早く、7月4～5半旬頃とされる。一方、5月上旬植えの早生品種では、すでに出穂がみられる地域もあり、早生の穂揃期～傾穂期頃と一致すると予想されることから、斑点米の発生が多くなるおそれがある。

3 防除対策

- (1) カメムシ類は畦畔など周辺雑草で増殖するので、出穂10日前までは除草を徹底する。
- (2) 一方、出穂期頃の草刈りはカメムシ類の水田内への侵入を助長するので行わない。
- (3) 水田内の雑草が多い場合は、カメムシ類の水田内への侵入を助長し、発生量が多くなるので、特に防除を徹底する。
- (4) オオムギ跡の雑草地に隣接している水田では、カメムシ類の発生量が多くなるので防除を徹底する。
- (5) 周辺圃場よりも出穂が早い圃場では、被害が集中する可能性があるので防除を徹底する。

《粉・液剤での防除》

- (1) 穂揃期（出穂3～5日後頃）と、その後7～10日後の傾穂期に2回薬剤散布を行う。
- (2) カメムシ類は、水田の周縁部に多く発生するので、本田防除の際には、畦畔も含めて防除する。
また、カメムシ類は、日中はあまり活動しないため、夕方か早朝に薬剤散布を行う。

《粒剤での防除》

- (1) 粒剤での防除は、薬剤によって散布時期が異なるので注意する。
- (2) 散布時は水深3cm程度の湛水状態とし、3～4日湛水した後、自然落水する。

《追加防除》

- (1) 斑点米産出能力の高いホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシなどの発生が多い場合や、水田内の雑草の発生が多くカメムシ類の発生が多い圃場では、追加防除を行う。

◎ 収穫7日前まで使用できる薬剤

エルサンバッサ粉剤20DL
トレボン粉剤DL
MR. ジョーカー粉剤DL
スタークル粉剤DL
アルバリン粉剤DL
ダントツH粉剤DL

* 防除対策の詳細は、平成23年度福井県農作物病害虫防除指針p27～32参照。